

福島第一原子力発電所 1号機

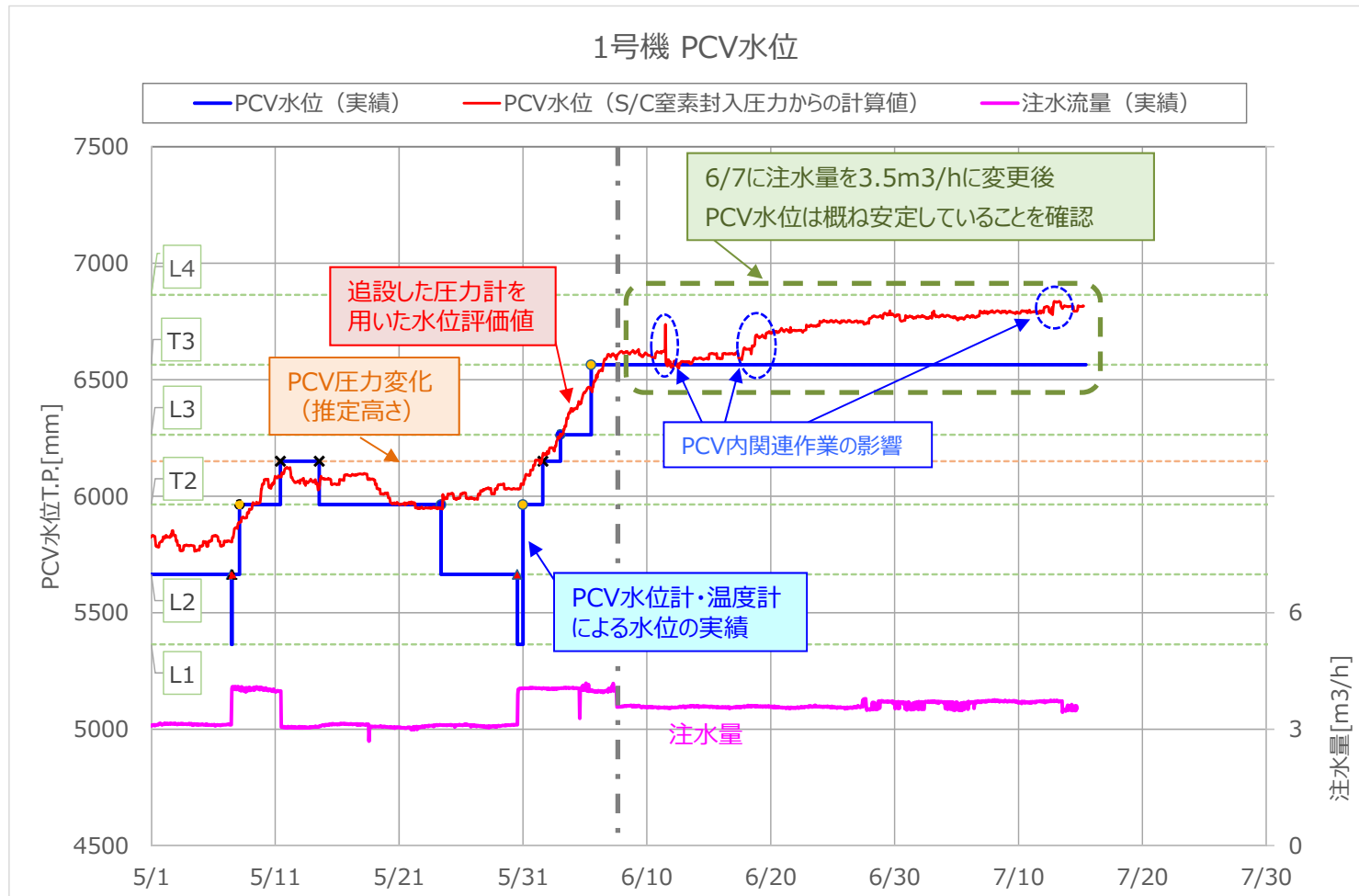
原子炉格納容器における水位安定の状況について

< 参 考 資 料 >
2 0 2 1 年 7 月 1 5 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 1号機原子炉格納容器（PCV）水位については、2月13日の地震以降、緩やかに低下傾向を示していたことから、原子炉注水量については、PCV水位に応じて3 m³/h と4 m³/hにて切り替えて対応していました。（水位を温度計T2（T.P.+5,964mm）と水位計L2（T.P.+5,664mm）の設置位置間にて管理）
- その後、PCV水位を連続的に監視するために追設した圧力計を6月4日より運用を開始し、6月7日より、PCV水位を安定させるため原子炉注水量を3.5m³/hに変更しました。水位は真空破壊管ベローズ（伸縮継手）下端付近（約T.P.+6,242mm）以上で管理するものとし、水位等の監視強化を継続して、水位の傾向を見ながら必要に応じて注水量を微調整することといたしました。
<2021年6月4日公表済み>
- PCV内の燃料デブリを安定して冷却できていることを確認しており、PCV水位低下以降、PCV内温度やPCVガス管理システムの放射能濃度などのパラメータ等に有意な影響はなく、また、PCVから漏洩した水は、原子炉建屋で受け建屋滞留水として処理しており、建屋外への漏洩がないことを確認しています。
- 注水量変更後、およそ1か月程度の間、PCV水位を監視した結果、作業等に伴う変動等はあるものの、PCV水位は概ね安定していることを確認しました。（設定流量の調整は実施せず）
- このことから、今後は注水流量3.5m³/hで運用していくとともに、これまで実施していた監視強化は7月16日午前0時をもって解除します。
- なお、今後、仮にPCV水位に大きな増減があった場合には、注水量の微調整を検討いたします。
- また、今後のPCV内部調査関連作業の進捗状況等をふまえ、PCVの耐震性向上等を図るため、2022年度以降に1号機PCV水位を段階的に低減させていくことを計画しています。

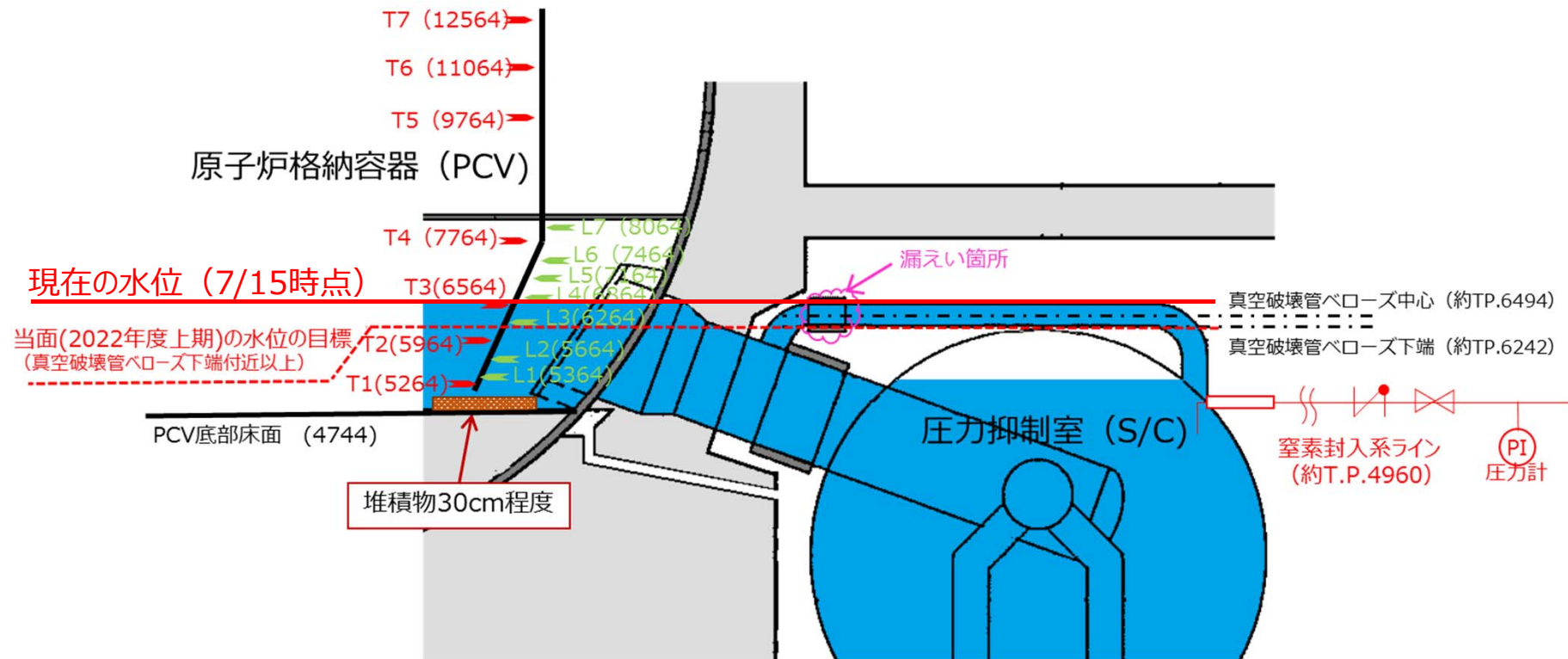
(参考) 追設した圧力計による水位評価とPCV水位計, 温度計の挙動

- 6月7日に注水量を3.5m³/hに変更して以降, 作業等に伴う変動はあるものの, PCV水位は概ね安定していることを確認した。



(参考) 現状のPCV水位と当面のPCV水位の目標

- 当面（2022年度上期まで）のPCV水位の目標は真空破壊管ベローズ（伸縮継手）下端より上に設定



(参考) 1号機 PCV水位低下計画について

- 当面（2022年度上期）は、デブリ取り出しに向けたPCV関連作業のため、漏えい箇所があると推定している真空破壊管ベローズ下端付近以上にPCV水位を維持（作業中におけるPCV圧力変動回避の観点等による）
- その後、原子炉圧力容器(RPV)温度、PCV温度を確認しながら、段階的にPCV水位を低下させ、最終的には、圧力抑制室（S/C）水位の低下を目指していく。

